

ニュースポーツ「イモゾーリレー」で

大熱戦

～真崎区運動会、東海中体育祭～

真崎区運動会(10月15日実施)と、東海中学校体育祭(10月16日実施)で「イモゾーリレー」が行われました。「イモゾーリレー」は、東海村スポーツ推進委員協議会が発案した、村の特産品である「ほしいも」をテーマにしたリレー形式の完全オリジナルニュースポーツです。当日は、ラグビーのように勢いのあるバトンパスや、想定外のハプニングなどで盛り上がりを見せました。村では、これからも村民の皆さんに楽しんでもらえるよう、さまざまなイベントで「イモゾーリレー」を広めていきます。

【問い合わせ】生涯学習課文化芸術・スポーツ推進担当(歴史と未来の交流館内 ☎287-0851)

バトン(イモゾーファミリーのクッション)をパスしながら進むよ! 落とさないよう気を付けて!



▲真崎区運動会



▲東海中体育祭

「イモゾーリレー」の詳しいルールや動画はこちら▶



「保育」という おしごと

— 保育者からのメッセージ —



子どもたちの気付きが
小さな日々の変化を輝かせます

私は幼稚園生の頃、よく担任の先生に抱っこされているような子どもでした。母親と離れるたびに泣いてしまい、先生は大変だっただろうなと思うほどです。今でも抱っこしてくれただ先生のことは忘れられません。私もそんな先生のように、子どもたちに安心感を与えられるようになりたいと思い、保育士を目指すようになりました。

私は保育士になり、季節ならではの遊びに触れ合いながら、とても新鮮な毎日を送っています。セミの鳴き声がツクツクボウシの鳴き声に変わったことに気付いて「秋になってきたんだね」とつぶやく子どもたちの声を聞いて、季節の変化に気付かされる

たこともありました。大人になるとつい見過ごしてしまう小さな日々の変化を、子どもたちのおかげで知ることができた時には胸が高鳴ります。

私は普段から、どんな遊びをしたら子どもたちが喜ぶかを考えながら保育をしています。遊びのアイデアが湧いてきた時、私がそれを子どもたちに伝えようと、「ねえ、凍らせたらいんじゃない?」などと別の発想で助けてくれることがあり、新たな遊び方を発見できます。保育の中で、子どもたちが遊びに夢中になり、自然と「面白い、またやりたい!」という声が聞こえてくると、うれしい気持ちでいっぱいになります。

子どもたちにとって保育所が、楽しくてワクワクするような発見や経験ができる場所と思ってもらえることが私の一番の願いです。朝は泣いてしまう子ども、笑顔で「バイバイまた明日」と言って帰る後ろ姿を見ると安心し、そんな時、私が幼稚園生だった時の先生も同じ気持ちだったのかなと思うことがあります。

保育の仕事に興味のある方はぜひ、子どもたちが笑顔になれる場所を、私たちと一緒につくっていきませんか。

舟石川保育所

小林美沙稀保育士